

伊勢の今を伝える

ISEBITO NEWS

遷御記念号

第14号

いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596) 23-5166 FAX (0596) 23-5241
E-mail otayori@isebito.com

14

「遷御の儀」 厳かに 晴れやかに

祭りがゆく――
千三百年の歴史に
新たな一歩をしるしながら。
伊勢の地に
大いなる力が満ちる時。

第六十二回 神宮式年遷宮

◆内宮 十月二日(水)
◆外宮 十月五日(土)



神域の祓所ですべての御料、すべての奉仕者を払い清める川原大祓が行われた。(外宮) 撮影/溝口照正



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

すすしの明衣も清々しく

今、緑の杜の中に新旧ふたつの正殿が並び立つ。

千三百年余の昔から伊勢神宮で二十年に一度行われてきた式年遷宮の大祭が無事終了した。

参道をすすむと、正殿はもとより、鳥居、常夜灯なども真新しく、吹く風も木の香を含んで清々しい。十月上旬に行われた宮遷りを中心とする「遷宮祭」は、内宮(皇大神宮)と外宮(豊受大神宮)、それぞれに三日間をかけての大祭であった。

日頃の祭りでは、神職の装束は白一色の浄衣または斎服だが、遷宮祭になると色装束に一変した。祭主は小袿に緋袴、大宮司・少宮司は束帯黒袍……と王朝時代の礼装に加え、清らかさを表す「すすし」の明衣を重ねる。

百五十人を越える祭列が杜の中を進む風景は、その玉砂利を踏む浅沓の響きとともに、遠い古代へ魂がいざなわれる心地がする。

前回に引き続き遷宮祭の祭主は、池田厚子さん(82)。臨時祭主・黒田清子さん(44)とほぼ交互に任に当たられた。お二人は伯母と姪の間柄である。厳かにして雅やかなご奉仕であった。

尊さにみな押しあひぬご遷宮
芭蕉

遷宮直後のお伊勢さんの人気は昔から絶大だ。ここ一カ月間ほどは、両宮の神苑で繰り広げられる奉祝行事の楽しみもある。

●主な内容

- 2・3面 遷御の儀レポート
- 4・5面 遷宮ダイジェスト
- 6面 参拝者の声
- 7面 遷宮奉祝奉納行事
- 8面 いせびと歳時記

浄闇の中、悠久の時間が流れ



新しい宮へ、新しい時代へ、杜のしじまに 大神の気配が遷りゆく。

遷御の日(内宮)は、この上ない秋晴れであった。内宮(皇大神宮)の参道には真新しい高張提灯が掲げられ、夜の祭典へ備えがみえる。

正午、新宮にご神体をお迎えできるよう殿内を調える式「御飾」が行われ、黒田清子臨時祭主(天皇陛下のご長女)が検分役として奉仕された。これで遷御までの祭りと行事はすべて終了となった。午後一時、一般参拝は停止。静



参進を告げる三鼓が響く。(内宮)



足もとに揺れる松明。(内宮)

かな神域に、礼装の特別奉拝者の来訪が始まる。約三千人のその席は、前回の棧敷・座布団から椅子席へ改められている。

五時半を過ぎると、青い素袍・烏帽子に正装した小工(宮大工)たち、各界代表の参列者の一団が、整然と指定の席へ進む。ほとんど皇室代表として秋篠宮様もご到着。前回に続き二度目のご臨席である。安倍首相夫妻も主要な閣僚八名とともに姿を見せ、外玉垣御門内の席へ進む。

松明の明かりの中を

秋の夕暮は早い。六時前、参進を告げる三鼓を打ち鳴らし、急ぎ足で過ぎる白丁の姿が暮靄の中に消えてゆく。

六時、斎館から「遷御の儀」への参進が始まった。衛士を先導に、勅使(手塚英臣宮内庁掌典長、黒田清子臨時祭主、さらに鷹司大宮司、高城少宮司をはじめとする百五十人を越える神職たちがつづく。出仕が手持ちで差し出す松明の明かりが足元をわずかに照らす。参道につづく長い祭列は、これから始まる重儀への序章とも思われた。

第二鳥居で勅使の祓いが行われ、玉串行事所では、櫛に木綿を結んだ太玉串をそれぞれが両手に持つ。勅使一行をはじめ東帯の神職たちはこれより長く裾をひく。やがて、正殿下石階を上る浅香の音がつづき、長い祭列は正宮の奥へ姿を消した。

ご神体は緋垣のうちに

ご正宮の奥、正殿の前で勅使が「お遷りを請奉る」と祭文奏上。新宮へ向かう諸準備が始まる。

殿内では、大宮司、少宮司、禰宜たちがご神体の八咫鏡を飯御櫃代、次に飯御船代にお遷りする。

一方、殿外では読み上げる召立文に従っておのおのが神宝・御装束を受け取り、列を整えていく。いよいよ出御の時を迎えて、庭燎などの明かりも消され、浄闇が訪れた。

「カケコー」と闇にながながと響く鶏鳴三声。天岩戸開きの神話にちなみ、鶏鳴所役が唱える。

勅使が「出御」と三度、奏上。八時ちようど、御殿内から、ご神体は白の絹垣に囲まれてお出ましになった。

楽師十二人による和琴、笛、歌による道楽の調べとともに御列は御門を出て、ゆっくりと三千人の奉拝者席の前を通り過ぎ、新宮へと向かった。

出御と時を同じくして、皇居では天皇陛下が最も丁寧な作法で皇祖を祀る伊勢の神宮を遥拝された。

遷御の儀

遷御■内宮10月2日(水)■外宮10月5日(土)



正殿へ向かう祭主をはじめとする神職たち。(内宮・神楽殿前)



伊勢名物

赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) ファクシヤル 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

道楽が流れ、ゆるゆると宮遷りの御列がゆく――



新宮の板垣御門をくぐる御列。(外宮)

外宮でも「遷御の儀」

内宮の二日後、外宮・豊受大神宮の「遷御の儀」が行われた。

外宮は、御饌(みけ)・神さまのお食事をはじめ諸産業の守り神として広く信奉されているだけに、内宮を超える三千六百人の特別奉拝者席が設けられた。

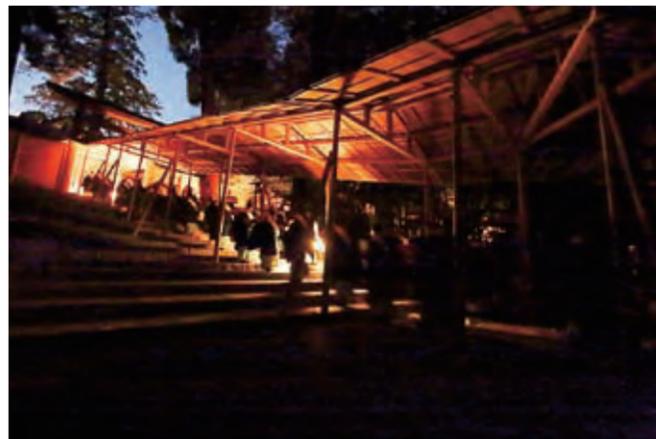
皇室代表は秋篠宮様、奉仕者は、黒田清子臨時祭主、手塚英臣勅使一行、神宮神職、と変わりない。

洋上に台風があり空模様が悪く、また、大祭に差し障るほどではなく、幸いであった。

今回の遷宮記念に開館し、人気の高い「せんぐう館」は、遷宮祭の三日間は遠来の特別奉拝者たちの接客の場となり臨時休館した。

内宮・外宮ともに遷御の日の翌朝は、五時の参拝開始時刻には千人をこえる初参りの人たちが長い列ができ、終日参拝がつづいた。

また、今回の遷宮祭の取材にあたった報道取材者はテレビ、新聞雑誌ともに首都圏、名古屋からも多く、約三百五十人にのぼった。



東から西へ遷りゆく御列。(内宮)



威儀具を奉じて新宮に向かう御列。(外宮)



皇室代表として秋篠宮様をご臨席。(内宮)



神域のしじまに玉砂利の音が響く。(内宮)



特別奉拝席(外宮)

文=乾淳子(1~5面) 撮影=鈴木一弘、溝口照正、編集部(2~5面)

奉祝

第62回 神宮式年遷宮

東京のお伊勢さま



東京大神宮



第62回神宮式年遷宮への道程

祭に、神々の ご加護を 祈りながら

新宮の造営、御装束神宝の調製、
振り返ると、八年の歳月が流れ、
三十三の祭りと行事を重ねていた。

木造始祭



小工による木造始祭は遷宮の起工式。
(平成18年4月21日)

立柱祭



槌音高らかに立柱祭。
(平成24年 内宮3月4日・外宮6日)

御杣始祭



木曾谷国有林(長野県)で伝統の“三ツ尾伐り”
によりご神木を伐採した。(平成17年6月3日)

はじめに、木の祭り

緑深い森の中、山口祭で遷宮への準備は始まった。八年前の春のことになる。つづく木本祭、御杣祭も緑の中の祭りだ。新宮を建てるご用材を伐り出す前に、山口におられる神、木に宿る神に祈る祭である。こうして、約一万二千本の樹齢二百年前後となる木曾ヒノキがご用材となった。

遠い昔から、天地のさまざまな事物に神を感じて、尊び、感謝し、加護を祈って暮らしてきた日本人。その心のありようが、遷宮の祭には凝縮されている。

用材が伊勢へ運ばれたのち、鎮地祭から立柱祭・上棟祭へ、新宮の造営工程がすすむときも、また、大宮地の神々、造営を守る屋船大船に加護を祈る祭りがつづいた。

神領民の出番

式年遷宮とお伊勢さんの地元・伊勢(旧神領)との間にも長い歴史がある。

古くは、内宮、外宮の門前を中心に宿泊・観光を兼ねた御師の活動が、伊勢を、せめて一生に一度でも、と憧れの聖地へと導いた。

また、木曾ヒノキの用材が伊勢に到着すると、五十鈴川を遡って内宮へ、宮川から陸路で外宮へ運搬した課役が、今では、二十一年一度、旧神領民あけてのお木曳行事として伝わっている。

今年の夏、猛暑の中で行われたお白石持行事も遷宮と神領民の深いつながりのうちに伝えられてきたもう一つの二十年に一度である。毎秋、神嘗祭に目を合わせて行われる初穂曳では、奉曳車が倉から引き出され、木遣り唄も披露される。二十一年に一度のお木曳やお白石持行事の手順を忘れないための行事でもある。

日参、朔日参り、十五日参りなど、お伊勢さんゆかりの慣わしは日々の暮らしに根付いており、枚挙にいとまがないほどである。

御戸祭から総仕上げへ

木の香を放つ神明造のご正殿が建ち上がり、周りに白石が敷き詰められた九月、総仕上げの祭りとして次々に行われた。

まず、御戸祭。新正殿の御扉に御鎌穴を穿つ祭りで、宮大工たちの正殿の仕事はこれで終了となった。次に、ご神体の八咫鏡をお入れする御種代を納める御船代準備。技師や小工たちが東宝殿にこもってこれを彫り、神職たちが新正殿に移し納める御船代奉納式が行われた。

また、竣工した正殿、東西の宝殿、御饌殿(外宮)をすみずみまで清める洗清も禰宜、権禰宜たちの手で丁寧に行われた。

心御柱奉建は秘儀とされ、夜のしじまのうちに終わった。正殿の床の真ん中の地中に深く建てられる神聖な柱で、ご神体の御鏡はその真上の位置に安置されるといふ。

九月最後の祭りは、響膳もあるめでたい杵築祭であった。新宮の完成を祝って、神職と造営庁職員の総員が長い白杖を手に新宮へ向かった。

五十鈴の宮の杵築してけり
国ぞ栄ゆる 郡ぞ栄ゆる
万代までに 万代までに

古代より伝わる祝い歌を口ずさみつつ、柱の周りを突き固めた。遷御前日の朝には、後鎮祭があどけない物忌の奉仕のもとに行われた。完成した新宮がいつまでも堅固であるようにと祈る祭りで、神前には鶏卵、つがい、白鶏も供えられた。また、新宮の床下には、神職により由緒ある古事にちなむ天平瓮が安置された。

後鎮祭

新宮の竣工に感謝し、安泰を祈る後鎮祭では物忌として伊勢市立浜郷小3年の森薫子さんが奉仕した。写真は外宮。(内宮10月1日・外宮4日)



杵築祭

白杖を手に新宮へ。完成を祝って柱の周りを突き固めた。写真は内宮。(内宮9月28日・外宮29日)



御戸祭



御扉の鎌穴をあける祭。これで宮大工の新宮の仕事は終わる。写真は内宮。(内宮9月13日・外宮15日)



奉祝 第62回神宮式年遷宮

神宮会館

内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます



〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

http://www.jingukaikan.jp



早朝参拝の
ご案内をしております。

奉祝 第62回神宮式年遷宮

頭の深(神)呼吸に
来ませんか

商売繁盛
職務安全・出世開運
仕事は独創性とひらめきが大切。疲れた頭と心を癒します。

学力向上
合格祈願
(入学・就職・資格・国家)
現代社会は頭の時代。受験・IT社会の守護神。

心の病気
頭の病気・ケガ
頭の神様の大きな御神助を戴いて病気快復。

頭之守護神 知恵の大神

三重県度会郡大紀町大内山
0598-72-2316
http://www.koubenomiya.or.jp/

【大阪】よりJR線又は三重交通(南紀特急)「大内山駅」下車徒歩10分
【紀勢自動車道】紀勢大内山ICより尾鷲方面へ車で5分
【松阪】「伊勢」からレンタカーが便利です。いずれも、およそ50分。



川原大祓

奉仕する神職たち、御料を納めた辛櫃すべてが葎い清められた。写真は外宮。(内宮10月1日・外宮4日)

御装束神宝読合

池田厚子祭主が御装束神宝の目録を点検した。写真は外宮。(内宮10月1日・外宮4日)



新居に遷られた大神をお祝いする祭り。

浄間のなかで、ご神体がお遷りになる。

遷御に向け、最終準備の儀式が行われる。

◆遷宮祭の流れ

3日目
(内宮10月3日・外宮6日)
6時 大御饌
10時 奉幣
14時 古物渡
17時 御神楽御饌
19時 御神楽

2日目
(内宮10月2日・外宮5日)
12時 御飾
20時 遷御

1日目
(内宮10月1日・外宮4日)
10時 御装束神宝読合
16時 川原大祓

遷御の前日に行われる御装束神宝読合(神宝類を点検する式)から、三日間にわたる重要な祭りは「遷宮祭」と呼ばれる。奉仕者一同、真新しい遷宮装束となり、池田厚子祭主もこの祭りから奉仕をはじめられた。祭主の装束は、小桂・表著・緋袴と華やぎある色目に、白の明衣を重ねる。大宮司・少宮司は、東帯黒袍で、朝廷で公事に用いられ格調高い装いだ。遷御前日、夕刻の祓所に御料のすべてを納めた辛櫃が運ばれ、祭主はじめ、奉仕者全員が会して川原大祓が行われた。前回、辛櫃はすべて素木だったが、御装束神宝を納めたものは黒と朱の京漆の塗となり、金色の御鏡が付けられた。辛櫃の緒も緋色に染まり、厳肅なうちにも華やぎを醸し出している。遷御の儀の当日となり、正午に正殿の内部を新しい御装束で調える御飾が行われた。

秋晴れの夜に、遷御の儀

遷御の日の夕刻、黒田清子臨時祭主は参進に先立って、お浄めの川原大祓を受けられた。「遷御の儀は夜の祭典でもあり、池田祭主に代わり、黒田清子臨時祭主が奉仕される」模様と事前に報道関係者へ通知があった。直前のことではあったが、黒田臨時祭主の毅然としたおやかなご奉仕の様子に、賞賛を惜しまぬ声が聞かれた。出御となるまでの時間、三千の奉拝席にはつつしみ深い静寂が流れていた。五十鈴川の支流、島路川の瀬音が高まる。種々の虫の音、

時折、夜鳴き鳥がそれに和する。片時ではあったが、悠久の時の流れの中にある心地となった。最終日、五つの祭り・式

遷御の翌日、早朝から遷宮装束に威儀をただした祭主をはじめとする奉仕員たちによって、五つの祭り・式が行われた。新居に遷られた大神に心地よくお過ごしただくお祝いの祭りである。しらじらと夜の明けた午前六時、新宮に初めてのお食事をお供えする大御饌が行われた。くつろいでお召し上がりいただけるよう、お傍近くで雅楽も奏された。午前十時には奉幣。天皇陛下からのお供え物である。勅使と随員が二つの辛櫃に幣帛を携えて参進し、五丈殿前の大庭で祭主に目録にお目通しいただいた。ご正殿に向かうにあたり、勅使一行、大宮司・少宮司らも太玉串を両手に持ち、東帯の裾を長くひきながら参進する様子は、これが「一社奉幣」と呼ばれる重儀であることを感じさせた。正宮から退下後は、五丈殿において、饗膳が行われた。午後二時には、古物渡の式。古殿に残る幣帛・宝物などが正殿へ移された。午後五時には、夜の御神楽に先立ち、正殿に御饌を供える御神楽御饌が行われた。神域に常夜灯のみ灯る夜七時、宮内庁楽師十二名による御神楽と秘曲の奉奏がはじまった。勅使、祭主をはじめ神職は庭燎に照らされた四丈殿へ。今世紀初めて行われた盛儀への祝意と平安への祈りを込めて、夜の更けるまで御神楽の宴はつづけられた様子であった。

早朝の6時、大御饌が供えられた。(内宮)



奉幣の儀の後、五丈殿で饗膳が行われた。(内宮)



奉幣の儀で天皇陛下からの幣帛が供えられた。写真は内宮。(内宮10月3日・外宮6日)



遷御の翌朝、初参りの人々が鳥居前に長い列ができた。(内宮・宇治橋前)



御神楽では、宮内庁楽師12名により神楽と秘曲が奉奏された。(外宮)



お伊勢参りは
まず二見浦で浜参宮
心身清めて
お伊勢さんへ

二見興玉神社

〒519-0602 三重県伊勢市二見町江 575
TEL 0596-43-2020

御朱印帳



おかげ座
神話の館

伊勢内宮前 おかげ横丁に誕生
遠い昔、そのまた昔から語り継がれてきた、日本の神話。「おかげ座 神話の館」は天照大神が祀られる伊勢の里の、これまでになかった本格的な神話体験館です。

伊勢内宮前 おかげ横丁
電話 0596(23)8838
1516-8558 三重県伊勢市宇治中之町52
http://www.okageyokocho.co.jp/

奉拝者 参拝者の声

遷御に臨んで

参拝者の声

10月3日 内宮初参り 参拝者の声

■遷御のテレビ中継を見て、お参りに来ました。20年後もまた夫婦で元気に来たいと願い、手を合わせました。
服部章雄さん(62) 松阪市

■20年前も遷御の翌日に訪れました。名古屋から終電に乗り、昨夜は鳥居前で一晩を明かしました。暖かくて過ごしやすかったです。初参りで、初心を思い出しました。
小川真愛さん(50) 愛知県

■北海道からきました。昨夜、奉拝しましたが、ご神体がお遷りになるとき、風が吹きました。今朝の新宮は、朝の光に輝き、ありがたい気持ちになりました。
笹川龍子さん(61) 北海道

■5時に外宮さんにお参りをしてから内宮へ来ました。これから始まる20年に新たな役割をいただいたような気がしました。
大澤いくよさん(43) 愛知県

10月5日 外宮遷御 奉拝者の声

■神様がお遷りになるところを間近に見られて感動しました。
鈴木伴子さん(61) 長野県

■夜の神宮に入るのが初めてなので景色が新鮮でした。新しい歴史が始まるのを感じました。
奥山和哉さん(26) 度会郡大紀町

■辺りが徐々に暗くなり、ご神体がゆっくりと新宮に遷るようすが、若い世代に(時代が)移り変わっていくような感覚を受けました。たくさんの若い人に参拝していただいて、遷宮をしっかり受け継いでほしいと思いました。
匿名希望女性(40代) 東京都

■神様が通るタイミングで雨が降り始め、小雨がちょうど白い霧のようになってとても幻想的でした。雅楽の音が近づき、ムササビが騒いでいたことさえ演出的でした。
豊田尚子さん(46) 伊勢市

■雅楽が、神様が遷る間、また中に入っても響いていて、音で神様との距離を感じました。松明のにおいにぬくもりさえ感じました。五感で神様に触れた気がします。
長内馨子さん(51) 三重県

■森の中で、虫や鳥の音が響くなかで、自然と一体となった儀式であることが伝わり、感動しました。
治田まゆみさん 東京都

■静寂の中で行事が営まれ、1300年前も同じような形でされてきたのかと思うと、歴史の重みを感じました。昔と同じ情景を見ることができ、日本人として生まれてきて良かったなと思いました。
杉田千里さん(41) 松阪市

■白い布に囲まれて運ばれていくときは本当に神様がいらっしゃるんだと感じて、言い表せないほど感動しました。伊勢神宮は地元なので今まで当たり前のような存在でしたが、本当にすごいところなんだと感じました。
古川奈々香さん(15) 多気郡大台町

天の戸を開くとよみのひびく間
み遷りのとき 近づくらしき
道敷の布のべられて み渡りの道
おごそかに夜眼に顕ちくる
先がけて齋の宮の踏みたまふ
神の歩みの道 ほの白し

神宮御遷宮

岡野弘彦

平成五年に行われた前回の遷宮で、私は文化人特別出仕として、内宮現宮の内院で庭燎を焚く役目を務めました。このときは、旧御殿からご神体が遷っていらつしやるご様子を近々と拝し、その意味



歌人 岡野弘彦さん

おかの・ひろひこ
1924年三重県生まれ。国文学者・折口信夫の内弟子として国文学、民俗学など幅広い研究を重ねる。歌人としても活躍。昭和天皇の和歌の相談役をはじめ皇室とも深く関わる。

するところを体感し、深い感動を覚えました。
今回は、外宮で、新旧のご正殿前に並ぶ奉拝席から厳かな遷御の御列を拝しました。御殿の外側から、前回は知ることのできなかつた旧御殿から新御殿への御列の模様をつぶさに拝見し、その全体像を知ることができたのです。
この二回の体験によって、遷御のようすをこまやかに感じ、知ることができ、大変ありがたいことであつたと思います。

「歴史の重みを感じた」
「五感で神さまに触れた」
「若い人に受け継いでほしい」
「二十年後も、また元気で来たい」
「今世紀初めての遷宮に触れた人々が語る、わたしのご遷宮」



遷御翌日、早朝5時の宇治橋前

三千人の奉拝者の懸命な祈りを強く感じた

京都産業大学名誉教授 所 功さん



昭和四十八年のご遷宮以降、三回目の奉拝です。最大の印象は、内宮遷御に臨まれた臨時祭主・黒田清子様の美しいお姿でした。勅使の手塚さんはじめ、皆さん衣裳も所作もたいへん立派でしたが、中でも清子様は木綿蔓の結び目も凛々しく、お務めに対するお気持ちが一瞬とわきまわって見えました。
戦後四回目の遷宮を重ね、その全体像は毎回充実してきています。一方で、前回バブル経済の最中に行われた遷御では、奉拝席がざわめき立って一部「見物」のような雰囲気があったのも事実。その意味で今回は、渡御の瞬間を三千人の奉拝者全員が固唾をのんで見守り、懸命にお参りしていることが強く感じられました。

浄間の内宮新宮で御火焚きにご奉仕して

日本画家 水野一昭さん



内宮遷御の臨時出仕として、新宮の齋庭で燎火を焚くお役を任ざり、新宮内院で歌手の藤井フミヤ



東日本大震災など大変な出来事もありましたが、だからこそ今、千三百年続く遷宮に大勢の人々が心惹かれ、祈りを捧げるようだと思われます。

渡御御列がゆく。

私は今回のご遷宮に際し、神宮より十六枚の記録画の制作を承っております。こうして参加させていただいた内宮遷御は、自身の作品としても描き残すつもりです。
みずの・いちあき
1944年愛知県生まれ。日本画家。日本美術院院長。平成17年より、神宮の式年遷宮を絵画で記録する記録絵画の一人として取材・制作を行っている。

さんともにご奉仕いたしました。
薄闇の夕刻から御垣内に入り、持ち場で火を焚きました。中では東帯緑袍姿の神職たちが灯明をともして新殿に出入りし、神様を迎える準備をなさっていました。
そして、八時の出御の前に、濡れ蓆で土塙の焚火を一斉に消し、入御のときを迎えました。祭列は雨儀廊から新殿へ——体感でおおよそ二十分くらいではなかったかと思えます。お遷りの瞬間に立ち会うことができ、感激の一言でした。

参宮客をもてなす **和妙** はらひ町

名物ステーキ牛丼をどうぞ

祝第62回神宮式年遷宮

外宮さんと内宮さん、二つのお宮が永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より「二光堂」と名づけました。

伊勢内宮前 **はらひ**

〒516-0024 三重県伊勢市内宮おはらい町
TEL 0596-224115 FAX 0596-224110

http://www.nikodo.co.jp/

おとろふソフト 「和妙」を50%以上含んだとろふのソフトクリームです。

「和妙」にぎたえ 水の良さを最大限ひきだせるよう作りあげた豆腐です。

うの花どーなつ 90円

うの花どーなつ 130円

奉祝 第62回神宮式年遷宮

伊勢おはらい町 **豆腐庵山中**

伊勢市宇治中之切町95番地 電話0596-23-5558 定休日/木曜

伊勢神宮に日本各地の 伝統芸能が集まる

大神がお遷りになると日本各地からお祝いの神楽やお国自慢の芸能が伊勢に集まる。十月〜十一月初旬の土日は神苑に囃子や太鼓の音が響き奉祝ムードに包まれている。

遷御が終わると内宮・外宮は、新宮参りの人々で大にぎわい。神苑は参拝者であふれ、現代版・お蔭参りの光景が繰り返された。そんななか奉祝ムードを高めているのが遷宮を祝い、全国各地から奉納される伝統芸能だ。内宮では神苑に特設舞台が設けられ、外宮ではまがたま池の水上にある奉納舞台が主な会場となっている。初日(十三日)は、茨城・福島・東京・大分など八つの都県から十の芸能が奉納された。中でもひとさわ元氣よく盛り上げたのが櫻川びん助さん(68)率いる「江戸芸かっぱれ」(東京都台東区)だ。八十三名で来勢。威勢のいい囃子に合わせ、揃いのタスキを身につけた浴衣姿で軽妙に踊るようすに、観客も笑顔で手拍子をとりにがら楽しんだ。東日本大震災で被害を受けた福島、宮城、岩手からも八団体が奉納初日に訪れ、「御宝殿熊野神社稚児田楽・風流(福島)を奉納した御宝殿熊野神社の宮司・下山田大膳さん(81)は「震災もあったが、多くの支えのおかげで、お伊勢さんに奉納でき感謝している」と語った。期間中、全国各地から百三十九の奉納行事が行われる。

【遷宮奉祝奉納行事】



「北口本宮富士浅間神社太々神楽」(山梨県富士吉田市)



「江戸芸かっぱれ」(東京都台東区)



手子后神社総代会による「あばれ太鼓」(茨城県神栖市)



保存会による「日田祇園囃子」(大分県日田市)



出雲流神楽の原型を継承する「出雲國大原神主神楽」より「山神祭」。(島根県雲南市)



「御宝殿熊野神社稚児田楽・風流」は国指定の重要無形民俗文化財。(福島県いわき市)



洋遊会による雅楽(富山県高岡市)



舞衣もこの曲に合わせて特別に作られた。頭の天冠には日陰糸を垂らし、手には榊の枝をもって「齋庭舞」を清楚に舞う神宮舞女。

取材・文 中川絵美子

「齋庭舞」 奉祝奉納行事に先立ち、両宮では奉祝舞楽が公開され、今回の遷宮を記念して作られた舞楽「齋庭舞」が披露された。元神宮祭主の鷹司和子さんが詠んだ和歌「みそのふは 秋の夜ふけて みかぐらの 笛の音高く ひびきたりぬ」から着想し、宮内庁式部職楽部が作ったもの。遷御の翌日、浄闇の中で秘曲が奉奏される「御神楽」を詠ったもので、清雅な調べが特徴だ。舞人は花菱模様をあしらった千早に蜜柑朱色の袴をはき、ゆったりした音色に合わせて舞い、観客を魅了した。

遷宮奉納行事(予定)

- 【内宮】場所：神苑特設舞台 (一部、参集殿)
- ◆10月26日(土)
 - 9時15分 目名太神楽(青森)
 - 11時 松獅子舞(徳島)
 - 13時15分 小國神社十二段舞楽(静岡)
 - 14時35分 伊予国浮穴郡里神楽(愛媛)
 - ◆10月27日(日)
 - 9時20分 早池峰大償神楽(岩手)
 - 10時30分 山添社田海太神楽(新潟)
 - 11時30分 法霊神楽(青森)
 - 12時30分 劔神社敬神団獅子舞(福井)
 - 12時50分 劔神社明神ばやし(福井)
 - 13時20分 鴻八幡宮祭りばやし(岡山)
 - 14時30分 日雲神社太鼓踊(滋賀)
 - ◆10月28日(月)
 - 10時35分 大前神社大御神楽(栃木)
 - 13時30分 天下一関白獅子舞(栃木)
 - ◆10月29日(火)
 - 10時50分 下坂神社獅子舞(香川)
 - 12時5分 新田稻荷神社神楽(静岡)
 - ◆10月30日(水)
 - 10時45分 肥後神楽(熊本)
 - 13時20分 伊豫神楽(愛媛)
 - 14時30分 分林真話会観世流舞囃子(京都) ※参集殿にて
 - ◆10月31日(木)
 - 9時15分 吉岐神楽(長崎)
 - 10時50分 さぬき里神楽(香川)
 - ◆11月1日(金)
 - 10時50分 塩竈神楽(宮城)
 - ◆11月2日(土)
 - 9時30分 大峽神楽(宮崎)
 - 10時35分 大日堂舞楽(秋田)
 - 13時20分 早池峰岳神楽(岩手)
 - 15時 小野獅子舞(三重)
 - ◆11月3日(祝)
 - 9時10分 岩根沢太々神楽(山形)
 - 10時45分 平戸神楽(長崎)
 - 13時15分 池川神楽(高知)
 - 15時 黒森神楽(岩手)
- 【外宮】場所：まがたま池奉納舞台 (雨天時せんぐう館催事室)
- ◆10月26日(土)
 - 10時55分 箱根湯立獅子舞(神奈川)
 - 13時15分 美和神社太々神楽(山梨)
 - 14時45分 北海道くしろ蝦夷太鼓(北海道)
 - ◆10月27日(日)
 - 9時20分 三島伶人会大々御神楽舞(新潟)
 - 10時40分 伊予里神楽(愛媛)
 - 13時15分 玖珠神楽(大分)
 - 14時30分 日本古武道振興会演武(東京)
 - ◆11月3日(祝)
 - 10時05分 籠神社太刀振り・大神楽・笹獅子舞(京都)
 - 13時20分 尾園三輪神楽(熊本)
 - 14時50分 宮原祇園獅子舞(熊本)

●内宮では、神苑特設舞台のほかに参集殿、神苑などでも行事が行われています。●平成25年9月10日現在の奉納予定。奉納開始時間は多少前後することがあります。

次世代に「神領民」の心と技を伝える一冊

伊勢のお白石持

第62回神宮式年遷宮記念出版 第2弾!

全77奉献団の奉曳記録に加えて、一般には公開されない「遷御」グラビアを含む、8年間の遷宮ダイジェストを掲載。

B5判 約200頁
定価 1400円+税

新刊予告 11月発行予定

編集・発行 伊勢文化舎

http://www.iwatoya.co.jp

祝 第62回神宮式年遷宮

お多福とともに
岩戸屋は今も昔も内宮前

金時生姜を使った
岩戸屋の生姜糖

鮮やかな赤色をした金時生姜は、香りと辛味が大変強い分、美肌効果や花粉症を抑える効果があるといわれています。

伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
珠庵
TEL 0596-23-6750

伊勢の上座&ギャラリー
百華
TEL 0596-23-3236

いせびと歳時記

秋の伊勢志摩のまつり・イベント情報

10月

11月4日(日)

開館20周年記念特別展「日本の原風景」

神やふるさとの風景など、環境と人々の営みが描かれた、近現代の作品約40点を展示。

26日(土)～27日(日)

神恩感謝日本太鼓祭

全国各地の太鼓衆が伊勢に集い、郷土色豊かな共演をみせる。

27日(日) 河崎商人市

伝統的な町家や蔵が残る江戸時代からの町並みで行う市。伊勢志摩の物産をはじめ、手づくりの作品や衣住の様々な店が河崎本通りに並ぶ。

11月

5日(火) 倭姫宮秋の例大祭

神宮による祭典、お神楽奉納の後、参拝者に福引き、甘酒、お神酒がふるまわれる。

7日(木) 片田福荷神社秋季大祭

地元の人に「いなりまいり」と親しまれている例大祭。五穀豊穣と大漁満足を祈願する祭り。祭典後、お神酒のふるまいや、15時から餅まきがある。露店も並び、地元の人や参拝客で賑わう。

9日(土) 港まつり

大漁祈願の祭り。午前中は地元の子どもたちによる子どもみこしや鼓笛の他、なぶら太鼓の演奏がある。午後からはカツオみこし・船みこし・鯛みこしや、今年新調した女性だけのカジキまぐろみこしなどが、地区内を勇壮に練り歩く。



港まつり



頭之宮四方神社例大祭

23日(土) 二船祭

海士潜女神社の祭礼として行われる神事。地元の若者が2隻の船に分かれて乗り込み、その早さを競い合う勇壮な祭りの海恵みの豊漁が祈願される。

23日(土)～29日(金) 新嘗祭

天皇陛下が宮中で新穀を神々に奉られ、御自らもお召し上げられるのに際して行われる祭り。

23日(土)～30日(土) 備前焼・石川泰二郎展

各地の選りすぐりの「藝」の品々を展示する10月に河崎でオープンしたギャラリー「伊勢御屋藝品店」の特別展。

12月

1日(日) 御酒殿祭

12月に行われる月次祭のご神酒がうるわしく醸造されるよう祈願し、全国酒造業の繁栄を祈る。

7日(土) 秋の美しいハイキング白滝さんコース

恋愛成就にご利益があると言われる白滝さんを巡るルート。受付は30分前より。

16日(土) 伊勢の伝統能楽祭り

ご遷宮の奉祝行事として、500年の伝統を有する、一色能、通能、馬瀬狂言が披露される。

16日(土) 頭之宮四方神社例大祭

1年の祭事の中で最も重要なお祭り。16日当日祭。17日の奉祝祭は、楽師・舞女による雅楽の奉奏や伊勢大神楽による曲芸、頭之福餅の餅まきがあり、露店も並び、賑わいを見せる。

16日(土) 写真展「日本人のころ」

常設展成26年春頃まで入場無料。9時～17時最終入場は16時30分まで。

「日本人のころ」は10月10日現在、まつり・イベントは主催者側の都合により、変更になる場合がございます。お出かけの際はあらかじめ電話でご確認ください。



伊勢の神宮古館の本館・新館では第62回神宮式年遷宮を記念し、企画展「おみやうつし」を開催中だ。

Advertisement for the book 'お伊勢さんと遷宮' (Ohise and Migration). It features a cover image and text: '予約受付中! 2014年「伊勢講ごよみ」(11月中旬発行)'. The book is published by Ise Cultural House (伊勢文化舎) and costs 1000 yen (part 1) and 1500 yen (part 2).

Advertisement for the book 'お伊勢さんと遷宮' (Ohise and Migration). It features a cover image and text: '記念出版第1弾! 好評発売中'. The book is published by Ise Cultural House (伊勢文化舎) and costs 1300 yen (including tax).

Advertisement for the book '伊勢のお白石持' (Ise no Ohishimochi). It features a cover image and text: '記念出版第2弾!!'. The book is published by Ise Cultural House (伊勢文化舎) and costs 1300 yen (including tax).

伊勢の神宮古館の本館・新館では第62回神宮式年遷宮を記念し、企画展「おみやうつし」を開催中だ。本館では、遷宮諸祭の流れを振り返る。おみやうつし、立柱祭の木柱など、今回来館に使用された祭具などが並び、臨場感あふれる展示が見どころだ。さらにおみやうつし、立柱祭の木柱など、今回来館に使用された祭具などが並び、臨場感あふれる展示が見どころだ。さらにおみやうつし、立柱祭の木柱など、今回来館に使用された祭具などが並び、臨場感あふれる展示が見どころだ。

新館では、遷宮諸祭で着用される装束や、今回の遷宮を記念した土産品などを展示。前回の遷宮時に池田厚子祭主や大宮司、禰宜、物忌などが実際に着用した貴重な装束を解説のパネルつきで間近に見ることができ、新館へのお参りと合わせて参観すれば、いっそう遷宮への理解が深まる。

購読のご案内 本紙を購読ご希望の方は、ご住所・お名前・電話番号・号数・部数を明記の上、下記の料金案内をご確認いただき、伊勢文化舎までお送りください。(1・3・6・7・8・11号在庫なし)

Advertisement for the 'Ise Shrine Pilgrimage Kit' (伊勢神宮参拝きっぷ). It features a cover image and text: 'ご遷宮記念 伊勢神宮参拝きっぷ'. The kit is available for purchase from September 1st to March 28th, 2015, and costs 6,200 yen (including tax).

Advertisement for the 'Ise Shrine Pilgrimage Kit' (伊勢神宮参拝きっぷ). It features a cover image and text: 'ご遷宮記念 伊勢神宮参拝きっぷ'. The kit is available for purchase from September 1st to March 28th, 2015, and costs 6,200 yen (including tax).